

# Implicit Association Test (IAT) の刺激語の妥当性の検討

## —SD 法による評価を通じて—

稲垣 勉<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup> 教育テスト研究センター <sup>2</sup> 京都外国語大学

本研究の目的は、潜在的な心的傾性を測定する Implicit Association Test について、その刺激語の妥当性を検討することであった。これまでに国内外で数多くの IAT が作成されているが、それらの刺激語は著者の主観で選定されているものが多いように思われる。そこで、本研究では著者らが作成した複数の IAT を例に、刺激語が作成者の意図通り振り分けられるかを検討した。IAT に用いた刺激語について Web を用いた調査を行い、いずれの IAT においても、作成者の意図通りに振り分けられることを確認した。IAT を作成する上で、本研究は一つの資料となる。

キーワード：Implicit Association Test (IAT), 刺激語, 妥当性

### 1. はじめに

Implicit Association Test (Greenwald, McGhee, & Schwartz, 1998; 以下 IAT) は、潜在的な心的傾性の測度として、国内外の多くの研究で使用されている。IAT は、PC 画面上に続けて呈示される単語の分類課題を通して、特定の概念間の連合を測定する。例えば不安を測定する IAT は、カテゴリー次元（自己—他者）と属性次元（不安な—冷静な）に関する刺激語（e.g., 私, 友人, 心配な, 落ち着いた）が順不同で連続して呈示され、各次元に対応するキーを押して分類する。「可能な限り速く、正確に行う」という教示の下、カテゴリー次元と属性次元が組み合わせられた試行を 2 種類行い「自己—不安な（他者—冷静な）」の組み合わせ課題が「自己—冷静な（他者—不安な）」の組み合わせ課題より素早く行われるほど、潜在的な不安が高いとされる。

IAT のカテゴリー次元および属性次元を構成する刺激語の数は研究によって様々だが、5 種類程度を用いるものが多い。これまで国内外で数多くの IAT が作成されているが、それらの刺激語の選定は作成者の主観でなされているものが多いと思われる。もし、作成者が意図していたものとは異なる方に分類しうる刺激語があれば、反応時間が遅れや、エラーの増加に繋がり、IAT の得点に大きな影響を与える。したがって、作成者が意図した通りに刺激語が混乱なく分類されるかを、事前に調査しておくことは重要であろう。

そこで本研究は、筆者らが作成してきたシャイネス IAT（相川・藤井, 2011: 「自己—他者」「シャイな—社会的な」）や自尊心 IAT（藤井・澤海・相川, 2014: 「自己—他者」「快い—不快な」）、不安 IAT（藤井, 2013: 「自己—他者」「不安な—冷静な」）、知能観 IAT（藤井・上淵, 2010: 「知能—運」「増える—変わらない」）を例に、その刺激語（各カテゴリー次元および属性次元につき 5 語）を分類する際、作成者の意図通りに回答者が分類可能かを確認する。具体的には、各 IAT のカテゴリー次元もしくは属性次元を構成する刺激語について、それぞれどちらに近いかを SD 法で尋ね、理論的中央値から（意図した方向に）有意に離れているかを確認する。こうした手法は Richetin, Richardson, & Mason (2010) や藤井・上淵 (2011), Fujii & Nakano (2012) などでも用いられている。

## 2. 方法

**2.1. 参加者** 本研究では2つのサンプルを対象に調査を行った。サンプルAは36名(男性13名, 女性23名。平均年齢27.86歳,  $SD = 8.94$ 歳)であり, サンプルBは40名(男性16名, 女性24名。平均年齢30.50歳,  $SD = 8.57$ 歳)であった。

**2.2. 手続き** 本調査はリアルタイム評価支援システムのREAS(<https://reas3.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/top>)を使用し, Web上で行った。著者が調査票を作成してWeb上に公開し, ボランティアの回答者から協力を得た。「自己—他者」のカテゴリー次元や「快い—不快な」「不安な—冷静な」「知能—運」「増える—変わらない」の属性次元について, 各刺激語を一つずつ示し, どちらに近いと感じるかをSD法で評定してもらった。例えば「内気な」という語は「シャイな」と「社交的な」のどちらに近いかについて「シャイな」と「社交的な」を両極とするSD法(1: シャイな, 2: ややシャイな, 3: やや社交的な, 4: 社交的な)で回答を求めた。「自己—他者」カテゴリー次元はサンプルAを対象に, それ以外のカテゴリー次元および属性次元については, サンプルBを対象に調査を行った<sup>1</sup>。

## 3. 結果および考察

各刺激語の評定平均値に対し, 理論的中央値(2.5)からの差について $t$ 検定を行った(Table2—4)。その結果, すべての刺激語の評定平均値は, 著者の意図した方向に, 理論的中央値より有意に離れていた( $ps < .001$ )<sup>2</sup>。すなわち, 各IATを構成する刺激語は, いずれも作成者の意図通りの方向に分類されていたことを確認できた。

「はじめに」で述べたとおり, IATを作成する上で刺激語の選出は重要であるが, これまでの研究では, 選出した語が妥当であるか(作成者の意図通りに分類されるか)を確認しているものは少なかった。混乱が生じうる刺激語が含まれていた場合, こうした調査を行わなくとも, IATのデータを収集する中でエラー率や反応時間に現れてくると思われるが, それまでの協力者のデータが無駄になってしまう。本研究で実施した調査は比較的容易に実施可能であるため, 事前にこうした調査をしておくことは有意義であろう。本研究における刺激語の妥当性確認の手法は, 今後IATを作成する上で参考になると考える。

Table2 「自己—他者」および「シャイな—社交的な」の刺激語評定の分析結果

刺激語	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>d</i>	刺激語	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>d</i>
私	1.03	0.17	-51.50	8.65	内気な	1.18	0.39	-21.78	3.41
自身	1.17	0.45	-17.89	2.96	ためらいがちの	1.58	0.50	-11.69	1.86
わたくし	1.22	0.68	-11.26	1.88	無口な	1.60	0.55	-10.44	1.64
自分	1.25	0.73	-10.25	1.71	遠慮がちな	1.88	0.40	-9.78	1.58
おのれ	1.64	0.99	-5.22	0.87	控えめな	1.95	0.45	-7.73	1.22
我々	1.92	0.44	-7.97	1.32	自信のある	3.45	0.50	11.93	1.90
ともだち	3.33	0.63	7.91	1.32	遠慮のない	3.50	0.51	12.49	1.96
友人	3.50	0.51	11.83	1.96	打ち解けた	3.53	0.55	11.70	1.87
知り合い	3.69	0.63	11.12	1.89	進んでする	3.58	0.50	13.58	2.16
知人	3.86	0.35	23.28	3.89	大胆な	3.65	0.48	15.06	2.40
他人	3.89	0.53	15.47	2.62					

<sup>1</sup> 知能観 IAT 以外の 3 つの IAT では, 共通して「自己—他者」のカテゴリーを用いているため, このデータ収集は 1 回のみとした。なお, 不安 IAT や自尊心 IAT では, 「おのれ」を「わたくし」と変更している。そこで「わたくし」という語についても評価を行った。

<sup>2</sup> 知能観 IAT の「増える—変わらない」カテゴリーの刺激語である「不変」のみ, 全ての回答者が「4 (変わらない)」と回答していたため  $t$  値を算出していないが, 全ての回答者が混乱なく「変わらない」に分類できることを示すものである。

Table3 「不安な—冷静な」および「快い—不快な」の刺激語評定の分析結果

刺激語	M	SD	t	d	刺激語	M	SD	t	d
恐れる	1.20	0.46	-17.72	2.83	うれしい	1.06	0.23	-37.31	6.22
心配な	1.28	0.45	-17.13	2.73	幸せな	1.06	0.23	-37.31	6.22
おくびょうな	1.43	0.50	-13.58	2.16	気持ちいい	1.11	0.32	-26.15	4.36
自信がない	1.55	0.50	-11.93	1.90	素晴らしい	1.11	0.32	-26.15	4.36
怖がりな	1.60	0.67	-8.47	1.34	元気	1.19	0.40	-19.52	3.25
気楽な	2.98	0.62	4.85	0.77	落ち込む	3.28	0.45	10.27	1.71
安心な	3.43	0.50	11.69	1.86	気持ち悪い	3.78	0.42	18.18	3.03
穏やかな	3.43	0.55	10.65	1.69	汚い	3.81	0.40	19.52	3.25
静かな	3.50	0.64	9.87	1.56	残忍な	3.81	0.40	19.52	3.25
落ち着いた	3.80	0.46	17.72	2.83	苦痛	3.81	0.40	19.52	3.25

Table4 「知能—運」および「増える—変わらない」の刺激語評定の分析結果

刺激語	M	SD	t	d	刺激語	M	SD	t	d
知識	1.30	0.46	-16.35	2.61	増加	1.08	0.27	-33.79	5.30
判断力	1.35	0.62	-11.69	1.85	拡大	1.08	0.27	-33.79	5.30
学力	1.40	0.63	-11.00	1.75	増す	1.25	0.44	-18.03	2.84
知恵	1.48	0.51	-12.82	2.02	加える	1.58	0.50	-11.69	1.86
想像力	1.75	0.67	-7.08	1.12	成長	1.58	0.50	-11.69	1.86
定め	3.53	0.55	11.70	1.87	一定	3.68	0.47	15.67	2.51
運命	3.68	0.53	14.14	2.23	維持	3.75	0.44	18.03	2.84
まぐれ	3.73	0.45	17.13	2.73	不動	3.85	0.36	23.61	3.75
星回り	3.78	0.58	13.98	2.21	固定	3.88	0.34	25.96	4.06
運気	3.88	0.34	25.96	4.06	不変	4.00	—	—	—

### 5. 参考文献

- 相川充・藤井勉 (2011) 潜在連合テスト (IAT) を用いた潜在的シャイネス測定の試み, 心理学研究, 82:41-48
- 藤井勉 (2013) 対人不安 IAT の作成および妥当性・信頼性の検討, パーソナリティ研究, 22: 23-36
- 藤井勉・澤海崇文・相川充 (2014) 顕在的・潜在的自尊心の不一致と自己愛——自己愛の 3 下位尺度との関連から——, 感情心理学研究, 21:162-168
- 藤井勉・上淵寿 (2010) 潜在連合テストを用いた暗黙の知能観の査定と信頼性・妥当性の検討, 教育心理学研究, 58:263-274
- 藤井勉・上淵寿 (2011) 他者軽視傾向を測定する IAT の作成, 東京学芸大学紀要総合教育科学系I, 62:287-291
- Greenwald, A. G., McGhee, D. E., & Schwartz, J. L. K. (1998) Measuring individual differences in implicit cognition: The Implicit Association Test, *Journal of Personality and Social Psychology*, 74:1464-1480
- Nakano, Y. & Fujii, T. (2012) A new method of measuring achievement goal orientation: Using Implicit Association Test, *Poster presented at the 10th Tsukuba International Conference on Memory, Tokyo, Japan*:27
- Richetin, J., Richardson, D. S., & Mason, G. D. (2010) Predictive validity of IAT aggressiveness in the context of provocation, *Social Psychology*, 41:27-34

